

# 職員採用

PR通信 vol.2



武蔵村山市、  
「伸びしろ」あります。



## 職員課長に直撃インタビュー

「武蔵村山市が求める人材」とは？

武蔵村山市の「伸びしろ」って？

特別企画

データで見る  
武蔵村山市役所

気になる有給休暇の  
過ごし方

# 職員課長に

# 直撃インタビュー



市が求める人材や武蔵村山市の魅力について、職員課長にインタビューを行いました。  
なかなか聞くことのできない職員課長のお話！受験者の皆様、武蔵村山市の受験を悩んでいる方々、必見です。

市役所を受験する時点では、  
「専ら市民のために奉仕したい」と考えていました。

**Q** 武蔵村山市役所を受験する際に、どのような気持ちでしたか。

また、入庁した後にどのような仕事をしてみたいとイメージしていましたか。

**A** 私は、民間企業で働く自分の姿を想像できなかったので、教員又は公務員を志望して就職活動を行っていました。

当時は、就職氷河期でもあり、是が非でもというよりは、可能ならば関わりの深い地元の市役所で働きたいという思いを持っていた記憶があります。

また、市役所を受験する時点では、具体的な仕事のイメージはなく、例えば、市民課や課税課などの窓口で「専ら市民のために奉仕したい」と考えていました。



**Q** このPR通信第2号では、職員の休暇の過ごし方が掲載されていますが、ワークライフバランスを保つために心掛けていることはありますか。

**A** 人生における価値観は人それぞれですが、現在の私の立場としては、各職員には仕事に充実感を見出すとともに、家族や友人、地域社会との関わりにおいても充実した時間を過ごしていただきたいと思います。

私の場合は、休日に趣味や父母会活動（野球・ラグビー・箱根駅伝の応援会等）などを楽しむこともあります。これまで仕事を優先に物事を考えてきたため、残念ながら、ワークライフバランスの話は適任でないと自覚しています。

なお、市役所には、各種休暇制度が整っており、ワークライフバランスを上手に実践している職員もたくさんいますので、御安心ください。

**Q** 市役所の人事異動について教えてください。  
(異動のサイクルや異動の際に大変だと感じること、異動の魅力等)

**A** 人事異動に関しては、各職員の能力、実績等のほか、異動希望も加味した上で、適材適所の人員配置を基本としています。

人事異動のサイクルは、3年から5年程度が一般的ですが、職種や職域によって異なります。私の場合も、最短で1年、昇任を挟んでいますが、最長で9年在職したことがあります。

(次のページにつづく)

(つづき)

人事異動には、職員の能力活用に加えて、人材の育成、組織の活性化など様々な目的や意図があります。異動に伴い、新しい仕事を覚えるのは容易なことではありませんが、新たな人間関係を築くことができ、多くの気づきもあります。後々に生かせる知識、経験等多いため、人事異動は非常に有益なものであると実感しています。

**Q** 課長自身、これまでのキャリアを振り返って、最もやりがいを感じた仕事や自身の働き方・姿勢に影響を与えたターニングポイントを教えてください。

**A** 企画課（現企画政策課・行政経営課）を振出しに市役所内外の様々な職域を経験した中で、やりがいを感じた仕事は数多くあり、いずれか一つを選ぶことは難しいです。

一例を挙げますと、各種計画の策定や新設条例の検討、市民まつりの運営、広報ビデオの制作などです。任された仕事を成し遂げる過程でやりがいを感じるのではないかと思いますが、私は、どのような仕事であっても、日頃からやりがいを見出す姿勢が大事だと思っています。

自身の働き方や姿勢への影響に関しては、その時々、今現在も学ぶことがあります。入庁

当時の上司や同僚の仕事ぶりに最も影響を受けました。

市役所で経験を積み、いつかその上司や同僚と同じように仕事をしたいという尊敬、憧れのような気持ちを当時から抱いてきました。

## 本市は、今まさに 大きな転換期を迎えています。

**Q** ずばり、今後の武蔵村山市はどのように変わっていくと思いますか。

**A** 市民の悲願である多摩都市モノレールの延伸に向けた環境が整いつつあります。モノレールが市内を運行する未来はそう遠くないと考えており、沿線市として、延伸後を見据えたまちづくりが大変重要となっています。

一方、狭山丘陵や多摩開墾に代表される豊かな緑も本市の魅力であり、自然環境の保全・活用も同時に進めていかなければなりません。

本市はまさに大きな転換期にあり、未知の可能性を有しているわけですが、今後の武蔵村山市は、市長を先頭に、市民と職員とが協働で形作るものであり、私たち一人ひとりの手に委ねられていると考えています。

## 「市民感覚」、「チャレンジ精神」、 「経営感覚」、「説明責任」を果たす職員

**Q** 最後に、どのような人に武蔵村山市職員になってもらいたいですか。受験者へのメッセージを含めてお願いします。

**A** 本市の求める人材は、一言でいえば「市民から信頼される前向きな職員」です。補足しますと、変化の激しい時代、厳しい財政状況にあって、「市民感覚」を前提として、「チャレンジ精神」や「経営感覚」を持ち、かつ「説明責任」を果たす職員を求めています。

新たな時代の武蔵村山市に向かって、市民のために、私たちと一緒に全力で挑戦しようという皆さんを大いに歓迎します。皆さんの積極的な御応募をお待ちしています。



# 武蔵村山

# 市役所



データで見る

10年前(平成22年4月1日)と比較しました!

10年前

現在

## 常勤職員数



391人

400人

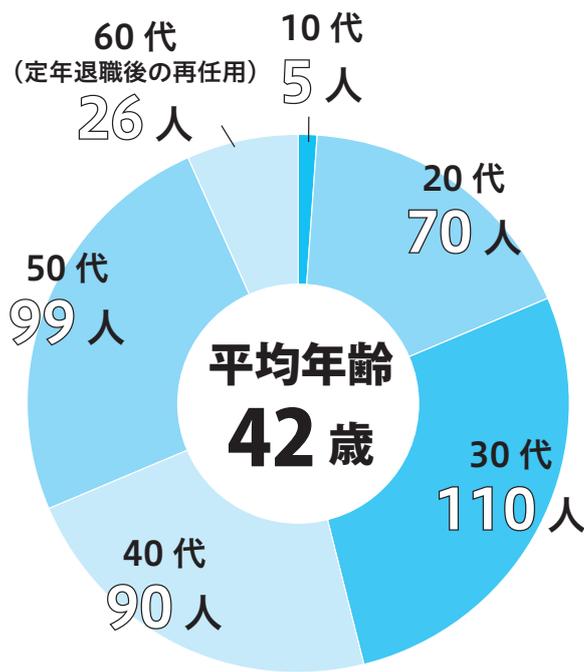
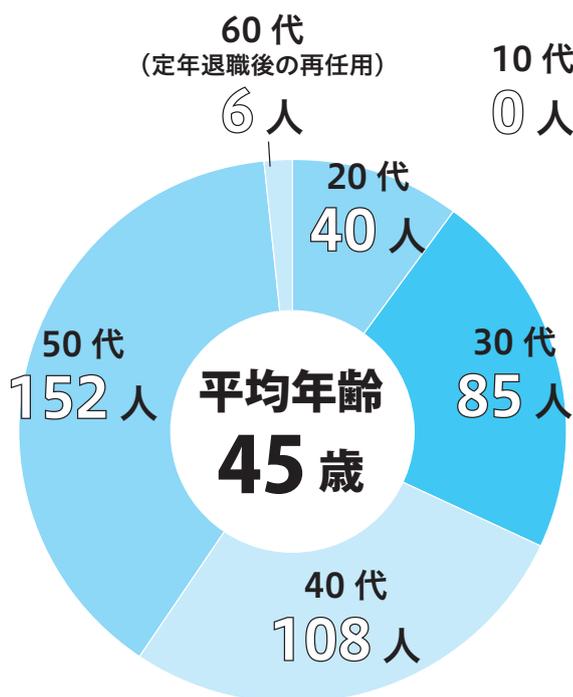
## 男女別職員割合



男性  
72.4%  
女性  
27.6%

男性  
68.5%  
女性  
31.5%

## 年齢構成



## 市内在住率



50.9%

41.0%

## 育児休業取得率



男性  
0.0%  
女性  
100%

男性  
22.2%  
女性  
100%

## 職層別平均年齢

主事・技師 35歳 1月

主任 49歳 0月

係長 47歳 11月

課長 54歳 4月

部長 55歳 3月

主事・技師 35歳 1月

主任 40歳 11月

係長 46歳 3月

課長 51歳 3月

部長 55歳 11月

## 有給休暇 平均取得日数



12.0日

12.3日

### Memo

- ・年次有給休暇 20日、夏期休暇 5日のほか、介護休暇、慶弔休暇など様々な特別休暇があります。
- ・育児休業等を取得しやすくするため、市長もイクボス宣言をしています。
- ・電車やバス等の公共交通機関利用者に交通費を実費支給（月額 55,000 円上限）。車やオートバイ等の交通用具利用者には、距離に応じて定額を支給します。

Next

有給休暇を取得した職員の  
休暇の過ごし方をご紹介



# 有給休暇の過ごし方

気になる

係長と入社3年目の若手職員に、休暇の過ごし方について聞いてみました。



## 仕事も、趣味も、生活も楽しもう！

総務契約課係長 瀬谷さん

私は、契約に関わる部署に所属しており、市民の方と直接関わることはありませんが、市民生活には欠かせない生活道路や建築（学校等）工事、医療器材等物品の購入などの入札から、契約相手を決定する重要な業務を行っています。契約行為は、各部署から提出される書類や設計書に誤りや疑問がないかなど、常に緊張感をもって業務に当たっているため、大変疲労感を感じています。

そうした中で業務を続けるには、心と身体をほぐすためにリフレッシュが大切です。平日は、ジョギングやフィットネスジムで汗を流し、趣味のサーフィンやスキーに行くときは、休日や有給休暇を有効に使って楽しんでいます。

そしてこの頃は、子育てに時間を使いながらも子供たちと一緒に趣味を楽しみ、リフレッシュだけではなく、子供の成長という新たな楽しみを感じています。

もちろん、仕事には繁忙期がありますので予定どおりにはいかないこともあります。仕事も趣味も生活も楽しみながらワークライフバランスを取っています。



## Off Time Life

課税課 三浦さん

私は、課税課で市民税を担当しています。パソコンでの業務や窓口での市民相談、電話対応などが主となり、デスクワークが基本です。常に、緊張感と公平性をもって、仕事に励んでいます。

そのような職場環境の中で、私が一番大切にしていることは、ONとOFFの切り替えです。休日や勤務時間外などの時間、「Off Time」を余すことなく過ごすことが重要だと思います。アフター5には、ジョギングや筋トレをし、休日には趣味であるキャンプやサバゲー、散歩、ドライブ、更に夏期休暇などを利用して海外旅行など、極力外出をして外の景色を見るようにしています。

また、趣味が同じ先輩職員や、研修などで知り合った他市役所職員の方たちなどと外出することは、仕事で役に立つ様々なノウハウが学べる上に、他市での状況を知ることができ、他分野での意見を取り入れることができてより一層業務がはかどります。

